

### 3. 札幌市博物館活動センターの活動と成果

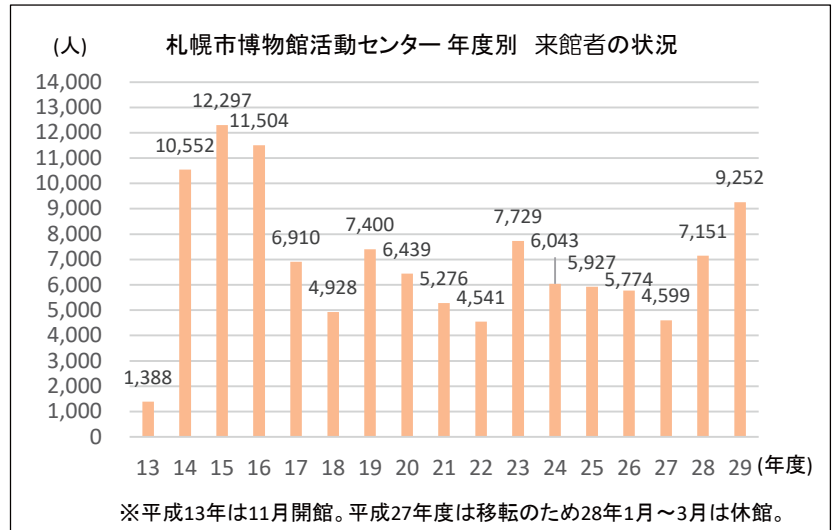
平成13年（2001年）に策定された「札幌市博物館計画推進方針」に基づき、博物館の整備に向けた準備施設「札幌市博物館活動センター」（以下「センター」という。）が同年11月に開設され、調査・研究や、資料の収集・保存、普及・交流事業など、展示と市民活動等を中心とするソフト事業重視の活動を行ってきました。

#### （1）札幌市博物館活動センターの利用動向

センターは、入居していたリンクージュプラザの閉鎖に伴い、豊平区に移転し、平成28年4月に移転再オープンしました。

移転後は、札幌駅前地下歩行空間でのイベントの開催、小学校のクラブ活動支援、小学校でのデリバリーミュージアムなどの普及・交流事業を積極的に取り組んでいます。

その結果、平成28年度にはセンターの来館者数は5年ぶりに7,000人を超え、平成29年度には、9,000人の来館があり、センター館外で実施した行事・イベントなどの事業参加者をあわせると延べ13,238人を数えました。



#### （2）調査・研究

「サッポロを知る」「サッポロを結ぶ」「サッポロから広げる」「サッポロによせる」「サッポロを楽しむ」をテーマとした5大プロジェクトをこれまで実施しています。小学5年生によるサッポロカイギュウの化石の発見や、約200人の市民の協力による「札幌市セミ調査」を実施するなど、多くの市民が調査に参加し、成果を上げてきました。

- サッポロカイギュウ\*化石の研究
  - ・市民参加による発掘で、複数個体の化石を発掘
  - ・道内、国内外のカイギュウ化石との比較研究、年代測定などにより世界最古の大型カイギュウ化石であることを解明。
- 小金湯産クジラ\*化石の研究
  - ・平成28年度より足寄動物化石博物館の協力を得て、詳細クリーニング作業及びレプリカの作成を実施。頭部のクリーニング作業にも着手し、その全貌解明に向けた取組強化。
- 札幌の希少植物調査
  - ・絶滅の恐れのある札幌の植物を中心に、生息・植生調査などを実施。
  - ・数十年ぶりの生息確認や新たな生息地を発見するなどの成果。

#### （3）収集・保存

センターでは、基本テーマを具現化する資料を体系的に収集・保存する方針で、札幌市内や石狩低地帯を中心とした道内の標本を継続的に収集しています。

古生物を中心とする世界的にも貴重な資料の収集実績があり、また動物（昆虫）や豊平川の総合研究として水生昆虫や水生植物相、豊平川さけ科学館と協力し魚類などの調査・資料収集にも取り組んできました。

現在までに、札幌の自然と人の関わりを探求するための基礎的資料が9万点以上収集・保存されています。

※一次資料：実物資料（直接資料）  
 ※二次資料：実物資料以外の「記録」されることにより生じた資料（間接資料）

平成29年3月現在の資料収集点数（累計）（単位：点）

区分	一次資料	二次資料
地質	459	7,888
古生物	2,876	4,966
動物	57,340	0
植物	7,034	12,482
菌類	941	217
考古	45	0
小計	68,695	25,553
合計	94,248	

### 3. 札幌市博物館活動センターの活動と成果

#### (4) 普及・交流

実習室や講義室で市民向けの講座を実施するほか、屋外での体験学習会も実施し、施設内外を通じて普及・交流事業に取り組んでいます。(平成13年度～平成29年度)

- 体験学習会
  - ・化石のレプリカ作りや、野外観察会など施設内外を通じて延べ115回、延べ2,880人が体験学習会に参加
- 市民と連携した事業
  - ・サイエンス・フォーラムinさっぽろ：平成22年に市民とともに「サイエンス・コンソーシアム札幌」を立ち上げ、市民向けのフォーラムを44回実施し、延べ3,132人が参加
- 学校連携事業
  - ・小学校クラブ活動支援（1校）
  - ・デリバリーミュージアム（延べ9校）
  - ・スクールモバイルミュージアム実証実験（延べ3校）
- その他の連携事業
  - ・「地質の日」関連企画展  
北海道大学総合博物館ほか5機関と連携し、「地質の日」関連の企画展や講演などを実施
  - ・「平岸高台小博物館クラブ」と「西岡さかな組」・「西岡ヤンマ団」の活動発表交流会の実施
  - ・とよひら子どもユメひろば「化石博士への道」への参加
  - ・CISEネットワーク：北海道大学総合博物館を中心とした実物標本を用いた科学教育への参画
- イベント及び広報
  - ・平成28年度・29年度には札幌駅前地下歩行空間を利用した博物館活動センター紹介事業を実施  
5,000人以上を集客する大規模イベントでの展示、トークショー、ワークショップ\*を実施
  - ・サッポロカイギュウの出前展示：まちなか（百貨店・ビル）や公共施設内での展示
  - ・カルチャーナイト：夜間開館、収蔵庫特別ツアー、科学絵本読み聞かせ会などを実施
  - ・博物館活動センター情報誌「ミューズレター」の発行を1999年から継続。通算発行回数は68回を数える。



小学校に活動センターの体験学習プログラムをお届けするデリバリーミュージアム。

#### (5) 展示

- 常設展示（収蔵展示室）
  - ・サッポロカイギュウの骨格標本や石狩低地帯の地史や動植物を紹介
- 企画展示  
館内では年に数回、企画展示を実施しています。  
  
《平成28年度》
  - ・北海道のアンモナイト化石の美と魅力
  - ・西岡公園調査報告展
  - ・はくぶつかんのたまご展  
《平成29年度》
  - ・札幌のクジラ化石展
  - ・札幌の水草展
  - ・かるたで知る札幌の植物展
  - ・博物館活動日誌



常設展示の様子

#### (6) 活動の成果と課題

センターでは、サッポロカイギュウ化石の研究や小金湯産クジラ化石の研究、札幌の希少植物調査など、将来の博物館整備に向けた調査・研究、資料の収集・保存を着実に進め、体験学習会や市民と連携した事業を実施するなど、普及・交流事業を積極的に行いました。その結果、平成28年4月に豊平区に移転再オープンしたのち、来館者が年々増加しています。

現在、センターには古生物・植物を専門分野とした2名の学芸員が調査・研究、普及・交流事業を進め札幌の魅力を発信していますが、研究分野の偏りや多様な分野や目的に対応したプログラムが提供できないなど、自然史に関する幅広い分野で取り組みを進めることが課題となっています。

今後については、普及・交流事業を充実させ魅力的なプログラムを創造し、来館者の増加や博物館活動参加者の満足度の、より一層の向上に取り組みます。